

# 令和3年度 東京都立山崎高等学校 学校経営報告

東京都立山崎高等学校長

中村 勝徳

自己評価の基準 【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

## 1 学習指導

<p>今年度の取組目標と具体的方策</p>	<p>(1) 基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（分かる授業、さらに学びたくなる授業、考えさせ表現させる授業、双方向型のやり取りのある授業、学んだことが深まりつながっていく授業等）の授業を実践する。                  (2) 学力スタンダードに基づき、教科会を中心に生徒の学力を客観的に把握し、日常の授業（習熟度別授業）や補習・講習を通して、生徒の学力を引き上げ、定期考査や評価に反映させていく。                  (3) 教科で組織的に、補習・講習を計画するとともに、資格取得（漢検・英検）や実力テストに向けて継続的な指導を行う。                  (4) 各教科で学んだことを定着させるために、授業外の学習時間を伸ばす工夫を行う。                  (5) 「主体的な学びにつながるよりよい授業づくり」を目指すために、オンライン授業等の研修も含め校内研修会を実施する。                  (6) 新学習指導要領に向けて、教育課程編成等の準備や研修会を実施する。</p>
<p>関連する数値目標</p>	<p>①生徒による授業満足度 75%以上                  ②習熟度別授業の満足度 75%以上                  ③日常の補習・講習及び長期休業中の講習の講座数の増加                  ④漢検・英検の資格取得者(合格者)の増加                  ⑤実力テスト（国・数・英）における平均点の向上                  ⑥教員同士の相互授業見学（年2回以上）の実施率 85%以上                  ⑦生徒の授業外の学習時間の向上                  ⑧ICT やオンライン（Teams）等を活用した授業実践の向上</p>
<p>自己評価及び次年度以降の課題と対応策</p>	<p><b>1 自己評価【B】</b>                  (1) ⑥教員同士の相互授業見学は「授業見学シート」を活用し、実施率が100%となり昨年度より向上。①授業満足度は75%②習熟度の満足度も78%と昨年度より向上。(2)(3)は、昨年度同様、教科間でばらつきがあることが課題。                  ④漢検・英検は、合格率も少しずつ向上しているが、更なる合格率の向上を目指す取組が必要。講習は講習の方法を変え講座数も増加し、外部講師の招聘や大学生によるチューター制も導入したが③充実度は63%と昨年度と同様。(4)⑦の生徒の授業外の学習時間は、1時間以上が20%であり課題が残る。⑤の実力テストの平均点の向上までには至らなかった。(5)は校内研修会を3回実施し、⑧オンライン授業の充実が図れた。(6)も校内で観点別の研修会や教科会を開き、新学習指導要領に向け準備を実施した。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応策</b>                  ●主体的・対話的で深い学びの授業実践は、まだ教科間、教員間でばらつきがあるため、次年度校内研修を通じて、さらに改善に努めていく。                  ●生徒の学力に幅があるため、習熟度別授業をさらに工夫するとともに、進路実現や学力の底上げのための補習・講習を定期的実施することによって、得意な生徒がさらに学力が伸びるよう、また苦手な生徒には学ぶ意欲を向上させ、学力を底上げできるように学校全体で取組んでいく。                  ●生徒の学習時間を伸ばす工夫を教科・学年を中心に意識的・計画的に取組む。</p>

## 2 進路指導

<p>今年度の取組目標と具体的方策</p>	<p>(7) 生徒一人一人の個性や能力が発揮できるように、適切な進路選択に向け組織的な指導を行う。                  (8) 進路指導部と学年、教科の連携を密にし、保護者・生徒に適切でタイムリーな進路情報を提供する。</p>
-----------------------	--

	<p>(9) 教職員による進路情報・生徒情報（実力テスト分析会などを通して）のデータを共有し、日常の授業、補習・講習に生かす。</p> <p>(10) 1学年インターシップ、2学年自立支援プログラム、3学年就職ガイダンス、専門学校研修会、進路系別説明会等の内容を充実させる。</p>
関連する数値目標	<p>⑨進路決定率 90%以上</p> <p>⑩進路指導充実率（生徒・保護者・教員とも）80%以上</p> <p>⑪難関私大や GMARCH レベルの大学合格者 3 名以上</p> <p>⑫日東駒専レベルの大学合格者 5 名以上</p> <p>⑬進路便りの発行年 6 回以上</p> <p>⑭全学年個人面談・三者面談の実施</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p><b>1 自己評価【B】</b></p> <p>(7) ⑩学校の進路指導が充実しているのは 78%。個別の進路相談に適切に応じているのは昨年度と同様 87%と進路指導に対しては概ね良好な回答。(8) は今年度初めて、進路部が中心となり学校全体の進路説明会を実施した。また各学年の保護者会においても、進路情報をタイムリーに届くようにした。保護者の学校に対する、進路充実度は 77%と昨年度より 7%上昇。進路相談に適切に応じているも昨年度の 77%から 82%と上昇した。⑬は 6 回発行、⑭も実施できたが、さらに生徒の進路実現達成のために、保護者と協力していく必要がある。(9) 昨年度から、7 月・10 月・1 月の実力テストを分析し、企画調整会議、職員会議で報告。実力テスト前に、各教科で事前の取組を実施。今年度から 3 年生の実力テストの回数を増やし、実力の判定、学習の方向性及び進路資料に活用した。(10) 今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、1 年生のインターシップは実施できなかったが、それ以外の進路行事は実施できた。⑨は 93.5%で目標達成。⑪は 0 名。⑫は 3 名であり、目標には達成しなかった。共通テスト受検者は昨年 22 名から 34 名に増え増加傾向にある。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応策</b></p> <p>●進路指導の充実に関しては、生徒・保護者が学校評価アンケートで 78%・77%と比較的肯定的に回答。教員は昨年度 34%であったが、今年度は 56%と向上したがまだ課題が残る。進路部と学年の連携をさらに強化していきたい。</p> <p>●次年度もデータや最新の資料に基づきながら、生徒・保護者と二者・三者面談を実施し、生徒一人一人に適した進路指導を実施し、進路実現を果たしていく。</p> <p>●実力テストや検定に向けて、教科で事前に取り組み、実力テストや検定をさらに意味あるものにしていく。また、生徒の学習時間の確保に向けての取組を学校全体で実施していくとともに、日常の授業や補習・講習の充実を図る。</p>

### 3 生活指導

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(11) 全教職員が一致した指導を組織的に行い、HR、授業、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的生活習慣（挨拶の励行）やルールやマナー・SNS ルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性を育む指導を行う。</p> <p>(12) 暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に対して厳格に臨むとともに、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携しながら未然防止、早期発見、早期対応に向け組織的な取組を行う。</p> <p>(13) 経営企画室と連携して、安全管理・環境美化に努めるとともに、生徒会活動の中で生徒が主体となって校外の美化活動に努める。</p>
関連する数値目標	<p>⑮生徒指導のルールやマナーの遵守率 90%以上</p> <p>⑯チャイム着席や授業態度等の授業規律の遵守率 90%以上</p> <p>⑰通学のルールの遵守率 90%以上</p> <p>⑱SNS の使用法や情報モラルの理解と遵守率 90%以上</p> <p>⑲いじめや自殺防止等への取組評価 80%以上</p> <p>⑳清掃美化活動の実施率 90%以上</p> <p>㉑生徒会等による挨拶運動の実施</p> <p>㉒下校時間や活動時間の遵守</p>
自己評価及び次年度以降の課題と	<p><b>1 自己評価【B】</b></p> <p>(11) 情報を共有し、組織的な指導を実施するよう努めてきたが、学年間で指導のばらつきがあることが課題。特別指導に関しては大幅に減少した。⑮は 88% ⑯は 87% ⑰は 92% ⑱は 94% ⑲は 84%で昨年度とほぼ同様。㉑は生徒会が主体的に</p>

対応策	<p>実施し、⑳下校時間や活動時間の遵守は大いに改善された。(12)特別支援コーディネーターを中心に、外部機関と連携した指導を実施した。(13)安全管理・環境美化に関して、㉑は78%と校内美化については改善の余地が大いにある。施設面に関して、老朽化が指摘される中で、今年度はトイレの改修工事を実施した。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応策</b></p> <p>●生徒指導に関しては、学校全体で挨拶やルールを守る習慣を定着させていく。また教員間で指導の温度差が生じないように、ベクトルを一致させ、統一した指導ができる体制をつくっていく。校則についての見直しや改善をさらに図っていく。</p> <p>●外部機関との連携や研修を実施し、スクールカウンセラーや保護者と協力しながら、教育相談・特別支援委員会を活性化していく。</p> <p>●創立40周年を迎えるにあたり、校内の施設整備及び環境美化を促進し、生徒が安全で過ごしやすい環境づくりを行う。</p>
-----	---

#### 4 特別活動・部活動・健康づくり

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(14)学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を経験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。</p> <p>(15)部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活加入率の維持向上を図る。また、部活動に関する活動方針に基づき、チームワークづくりを重視し、学年を超えて生徒同士が高めあう集団づくりを行うことができるよう指導していく。</p> <p>(16)体育の授業、部活動、体育的学校行事等を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。またオリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させレガシーを構築していく。</p> <p>(17)教育相談を充実させ、合理的配慮を必要とする生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを行う。</p> <p>(18)図書館の積極的利用等を通じて、読書活動の取組を強化する。</p>
関連する数値目標	<p>㉓学校生活の充実度 80%以上</p> <p>㉔学校行事の充実度 80%以上</p> <p>㉕部活動の充実度 80%以上 1年生の部活動加入率年度末 80%以上（全校部活動加入率 60%以上）</p> <p>㉖スポーツ特別強化校であるアーチェリー一部の関東大会（個人）以上出場</p> <p>㉗体力テストによる生徒平均が全項目で都平均値以上</p> <p>㉘保健だよりを毎月1回以上発行</p> <p>㉙学校の教育相談体制の充実 80%以上</p> <p>㉚図書館の利用満足度 65%</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p><b>1 自己評価【B】</b></p> <p>(14)今年度は、感染症対策を徹底させながら、体育祭(6月)、文化祭(9月)を実施できたが、行事の充実度㉔は57%であり、内容の充実度が課題となる。(15)部活動の加入率は、昨年度より7.6%上がり67.2%であった。感染の拡大に伴い、活動が中止になる時期もあったため㉕は67%であった。(16)体育の授業や部活動を通じて、基礎体力の向上に努めてきた。また東京2020レガシーの構築に向けて、生徒がスポーツに親しみ、具体的に部活動の練習にプログラムを取り入れながら主体的に健康づくりに取組めるよう、11月にコーディネーショントレーニングを実施した。(17)教育相談・特別支援委員会を通じて、個別の配慮が必要な生徒に対しての情報共有及び教育相談の充実に努めた。㉙は78%。(18)図書委員会を中心に、図書館だよりの定期的な発行及び山高の50冊を作成し、読書活動の取組を強化したが、㉚は58%で課題が残った。㉓は65%、㉖は関東大会以上の出場には至らなかった。㉗は都の平均より低く、学校全体で体力向上に向けてのさらなる取組が課題。㉘は実施できた。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応策</b></p> <p>●学校行事の内容を検討し、生徒が主体となって学校行事を創っていける体制をつくり、学校への帰属意識を高めていけるようにしていく。</p> <p>●部活動を継続させる力を教員と生徒が一体となって創り上げる。またチームワークを重視し高め合う集団づくりを行っていく。</p> <p>●学校・保護者・関連機関が協力し合い、個別の配慮が必要な生徒に対して、相</p>

	<p>談しやすい体制づくりを築き、生徒の自立に向けた丁寧な指導を実践していく。</p> <p>●学校の中で、図書館が情報発信の中心となるように、図書館を授業や行事、探究活動等あらゆる場面で活用できる体制づくりを行う。</p>
--	--

## 5 募集・広報活動・地域貢献

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(19) 学校説明会・学校見学会を工夫し積極的な取組を行う。町田市をはじめとした地域への効果的な中学校訪問や都立高等学校等合同説明会等への積極的・効果的な参加を通じて、本校の魅力をアピールし、本校の特色を理解し、第一志望とする生徒を確保する。</p> <p>(20) 「やまこう Newsletter (学校だより)」を発行し、ホームページ等を通じて最新の学校の様子を保護者・中学生・地域に発信していく。また学校からのお知らせや緊急時の対応等をタイムリーにホームページ等に掲載する。</p> <p>(21) 地域連携(関係機関や近隣の保育園・小中学校等)やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。</p>
関連する数値目標	<p>①推薦 2.0 倍、前後期 1.1 倍 特に女子の応募倍率の向上</p> <p>②やまこう Newsletter の定期的な発行とホームページ掲載</p> <p>③HP の更新回数 500 回以上</p> <p>④学校説明会等来校者数 1000 名以上</p> <p>⑤町田市内及び近隣区市の中学校への教員の訪問</p> <p>⑥中学校への出前授業・出前説明会への積極的参加</p> <p>⑦地域密着型教育活動推進校として地域のボランティア活動や地域行事の積極的な参加</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p><b>1 自己評価【C】</b></p> <p>(19) 学校説明会・見学会のパワーポイントや動画を今年度も新しく作成し、中学生目線にリニューアルした。昨年度の 950 名から 1110 名の中学生保護者が来校し、アンケート結果も良かったが、倍率の向上にまで至らなかったことが大きな課題。(20) 学校通信の「やまこう Newsletter」に加え、学校の旬な情報を発信する「やまこう News Flash」をホームページに更新し、保護者・中学生・地域に発信。(21) 生徒会による近隣の小中と連携した「あいさつ運動」、町田市と連携した文化祭でのフードドライブや生徒会と町田市議との意見交換会、部活動生徒による地域の清掃ボランティア活動等を実施した。また、ユネスコキャンディデート校に選ばれ、ロシアの高校との交流を始めた。①推薦は 1.89 倍 前期男子 0.97 倍 女子 0.85 倍 後期 0.74 倍と目標に達せず。②③444 回。④コロナ禍で 1110 名来校と目標は達成。⑤⑥⑦はコロナ禍であったが、本校生徒が中学訪問へ行くなど可能な範囲で実施した。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応</b></p> <p>●町田市内の中学校や本校にアクセスしやすい近隣地域の中学校を訪問し、「面倒見の良い学校として」本校の良さを伝え、第一志望の生徒を増やしていく。</p> <p>●HP の更なる改善を行い、保護者・中学生・地域に情報発信していく。</p> <p>●生徒会等を中心に町田市や学校周辺の近隣地域と協力して、ボランティア活動・清掃活動、地域行事へ参加し地域活動に貢献していく。またユネスコキャンディデート校として、海外との交流をさかんにしていく。</p>

## 6 学校経営・組織体制

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(22) 組織体制として、調整(分掌・学年・経営企画室が協力して意思疎通を図りながら職務遂行する)と協働(教職員一人一人が当事者意識を持ちチームとして動く)を重視し、企画調整会議やその他各種会議を単なる報告会でなく、情報共有、意見聴収、課題解決と新たな取組の場に変えていく。</p> <p>(23) 経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組と教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。</p> <p>(24) 適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。</p> <p>(25) 日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務規律に対する意識を向上させる。</p>
----------------	---

	<p>(26) 計画的な仕事の進行管理により、業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。業務の無駄を省き、整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減を推進する。</p> <p>(27) 創立 40 周年記念行事に向けて委員会を発足し、記念式典、生徒による成果発表、記念誌の作成、記念品の検討等関係機関と連携し、委員会を円滑に運営し、着実に進めていく。</p>
<p>関連する数値目標</p>	<p>③⑧各分掌が学校経営計画に基づき、PDCA マネジメント・サイクルを確立するために、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施</p> <p>③⑨一般需用費の学校経営支援センター利用率 70%以上</p> <p>④⑩一般需用費の予算執行率 100%</p> <p>④⑪学校徴収金未納者ゼロ人</p> <p>④⑫サービス事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実施</p> <p>④⑬適切な来校者・電話対応で苦情ゼロ</p> <p>④⑭教職員の個別の超過勤務時間の削減</p>
<p>自己評価及び次年度以降の課題と対応策</p>	<p><b>1 自己評価【B】</b></p> <p>(22) 組織体制として調整と協働を重視した学校運営を実施してきたが、学年・分掌間でまだばらつきがあるが、少しずつ改善されつつある。企画調整会議は、徐々に課題解決型になってきている。(23) 今年度も経営企画室の積極的な参画により、経営上の課題は迅速に解決した。(24) 今年度も予算編成、予算執行、施設設備の改善、財産管理を適正に実施できた。(25) 研修や会議を通じて、体罰やサービス規律の意識向上を図り、事故はゼロであった。(26) 下校時間の厳守や会議のスリム化、年休 15 日以上取得率の向上等ライフ・ワーク・バランスの向上に努めた。業務縮減にはまだ課題が残る。(27) 計画通り実施した。</p> <p>③⑧学校運営連絡協議会で報告。③⑨は 66.3% ④⑩は 99.0% ④⑪未納者ゼロ ④⑫サービス事故・体罰・会計事故ゼロ。④⑬特に苦情はない。④⑭特定の教職員の超過勤務が課題であるが、全体としては改善されつつある。</p> <p><b>2 次年度以降の課題と対応策</b></p> <p>●次年度も、企画調整会議や各分掌部会・学年会・教科会等を課題解決型にシフトしていくとともに、各分掌・学年・教科間で調整を図り、学校運営を円滑に実施していく。また校内研修（①生徒指導②特別支援教育③観点別評価④進路指導の在り方⑤生徒募集について等）の充実を図り、学校の課題を解決していく。</p> <p>●創立 40 周年記念式典に向けて着実に準備を進めていく。また教員と経営企画室が一体となり、学校改革を進め、校内の施設環境整備等を実施していく。</p> <p>●高い倫理観をもち、適切な予算執行を行い、会計事故・サービス事故・体罰ゼロの目標を達成する。またライフ・ワーク・バランスをさらに推進していく。</p>

